

1. 会議の名称	君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議
2. 会議の開催日時	令和元年11月6日（水） 午後2時から午後4時
3. 会議の開催場所	君津市役所 5階大会議室
4. 会議の議題	（1） 千葉大学・市原市との共同研究「人口維持に向けた若者回帰戦略研究」の状況報告について （2） 第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略のたたき台について
5. 公開又は非公開の別	公開
6. 傍聴できる者の定員	30名
7. 出席委員	齊藤茂雄、内山雅博、小関常雄、齊藤佳子、倉阪秀史、横尾隆義、鶴巻郁夫
8. 欠席委員	関谷昇、松井健太
9. 出席職員	市長 石井宏子 副市長 中川茂治 企画政策部長 安部吉司 企画政策部次長 鈴木広夫 企画課副課長 開田雅典 企画課係長 中村峰之 企画課主任主事 部田俊明
10. 傍聴人の数	3名
11. 発言の内容	別紙のとおり
12. 備考	

【鈴木次長】

皆様にはご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、只今より、令和元年度第2回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を開催いたします。本会議につきましては、「君津市会議等の公開に関する規則」に基づき公開しております。本日傍聴の方が3名いらっしゃいますので、その旨ご報告いたします。はじめに、市長よりご挨拶をお願いします。

【石井市長】

皆さん、こんにちは。市長の石井でございます。令和元年度第2回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、公私ともに大変お忙しいところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。日頃から、委員の皆様には、市政各般にわたり格別なる、ご支援、ご協力をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。はじめに、このたびの相次いだ台風や大雨により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。市内では、多くの建物や農業施設等に被害が発生しており、今後の生活支援、農業や事業の再建など、多くの相談が寄せられている状況です。市といたしましては、引き続き、国や県、関係団体等との連携を強化し、様々な方面からご支援をいただきながら、今後の被災者支援に全力で取り組んでまいります。さて、今回の有識者会議から、鶴巻様、横尾様、松井様の3名に、新たに、委員として参加していただくことになりました。皆様には、本市の地方創生の取り組みにつきまして、ご指導、ご協力をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。本日は、千葉大学ならびに市原市との共同研究である「人口維持に向けた若者回帰戦略研究」について、倉阪教授よりご報告いただくほか、これまでの市民意識調査や各種団体との意見交換などを踏まえ作成した、次期総合戦略のたたき台について、皆様からのご意見を頂戴したいと考えております。委員の皆様には忌憚のないご意見、ご助言をいただきますようお願い申し上げまして、あいさつといたします。本日は、よろしくお願ひいたします。

【鈴木次長】

ありがとうございます。続きまして会議の開催にあたりまして何点か報告させていただきます。まず、会議の委員についてですが野村委員より過日、辞任願をご提出され受理しておりますので報告させていただきます。続きまして、関谷委員と、この度の会議から新たに委員となっていました松井委員ですが都合により欠席でございます。次に、お配りしました会議資料の確認をさせていただきます。不足はございませんでしょうか。なお、新任委員及び任期満了に伴う委嘱状につきましては、机上配布としておりますので、ご了承をお願いいたします。続きまして、今回より新たに委員としてご参加いただいております、鶴巻様、横尾様から自己紹介をお願いいたします。

～鶴巻郁夫委員、横尾隆義委員より自己紹介～

【鈴木次長】

ありがとうございました、今後ともよろしくお願いいいたします。次に報告事項でございます。君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議設置要綱の改正について説明いたします。はじめに改正の趣旨でございますが、本日お集りいただいております、この有識者会議の組織をこれまで以上に機能強化を図り、産官学金労言の更なる連携のもと、地方創生を実現するため、設置要綱の一部を改正いたしました。改正内容につきましては、委員の任期をこれまで1年としていたものを2年に延長したこと、また、座長をこれまで副市長が務めておりましたが、市長の指名により座長を定めることとし、座長に事故あるときに備え、座長代理を予め指定しておくこととしました。詳細につきましては、お手元の改正した設置要綱をご確認ください。なお、市長による座長の指名につきましては、予め小関委員にお願いしておりますので、この場をお借りしてご報告申し上げます。また、座長代理につきましては、小関委員とも相談しながら、野村委員にお願いする方向で調整していましたが、野村委員からの辞任願の提出に伴い、改めて調整のうえ、次回会議の際に座長より指名させていただきます。恐れいりますが、小関委員は座長席へ移動をお願いいたします。それでは、議事に入らせていただきます。本会議の設置要綱第5条第2項の規定に

より、小関委員が座長となりますので、議事進行をお願いいたします。

【小関常雄委員】

市長の指名により、今回の会議より座長を務めます、小関でございます。改めましてよろしくお願いいいたします。不慣れではございますが、精一杯務めさせていただきます。各委員には、スムーズな進行となるようご協力お願いいいたします。本日の会議録署名人でございますが、齊藤茂雄委員を指名したいと思いますので、よろしくお願いします。それでは早速議事に入ります。議事1「千葉大学・市原市との共同研究「人口維持に向けた若者回帰戦略研究」の状況報告について倉阪委員からの説明を求めます。

【倉阪秀史委員】

～「人口維持に向けた若者回帰戦略研究」を資料に沿って説明～

【小関常雄委員】

ありがとうございました。未来カルテを基に、若者の人口回帰について3つの提案いただきました。『週末市民』『里山留学』『田舎暮らし学校』ですが、すぐに君津に住んでもらうよりも、まずお試しで来てもらい、良さをわかってもらってから移住や関係人口の増加へ繋げていくお考えになります。課題を活用していく良い考えだと思います。それでは資料や提案について委員の皆様から意見等をいただきたいと思います。

【横尾隆義委員】

ご説明ありがとうございます、数字についてよく調べていただいていると感じました。人口については、君津市だけでなく全国的にも今のうちに手を打たないとならない、特に人口問題は今日明日に効果が出るものではないので非常に重要な話だと改めて感じました。先ほどのご提案で里山とございましたが、実は私どもも里山房総という名称ではありませんが、長南町と大多喜町で事業をしておりまして、ご提案に含まれた廃校などのパートを活用した事業を行っております。長南町が約7,000人の町ではございますけれども、昨年、私ど

もが団体施設を開設することによってテレビ局のキー局全部が取材に来て頂き、何度も何度も取り上げていただいたおかげで、7,000人の町に175名の転入者がいらっしゃったそうです。主に若者が来まして、私どもがオープンしてから若者がカフェを4件もオープンしておりまして、長南町でカフェのお店が増えてきております。なぜ若者達が長南町に来ているのかというと、メディアの取り上げ方が観光の案内ではなく、なにかこの町動いてきているだとか、なにができる町になってきているといった、とてもメッセージ性の強い取り上げ方になっていたからです。私どもは何かする時に具体的に攻めていかなくてはならないこともあるかもしれないですけれども、イメージ戦略というのもすごく大事なことなのかと考えております。もう一つ言いたいこととして失礼かもしれませんが、東京とかの方からすると君津市だとか自治体の行政区は関係のないこととして、今4市で連携してということもあるかと思いますので、是非エリアで開発とか一緒になってやっていっていただきたいなと思ったことと、我々も今日、東京から君津までバスでちょうど1時間で来まして、里山のエリアと東京のちょうど中間点に位置するいい場所なのかなと思っております。また、これからは在宅勤務がいよいよ始まっていくのではないかなと思っておりまして、来年の東京オリンピックの期間中は東京が大変混雑すると予想されておりますので、在宅に関して君津はちょうどいい近さにあって、のんびり仕事をするにも、何かあって東京に行くにしても非常にいいポイントかなと思っています。それと、もう一つ逆の側面がございまして、大多喜町と一緒に事業していた中で、勝浦市からいらっしゃる方がおりまして、勝浦に住む人からすると、東京に近い側のいわゆる働き口になるとと、勝浦に実家がある人からすると、実家からそこまで離れたくないけれど、もう少し東京の近くに住みたいという人達の需要もあると実感しました。提案なのか意見なのか思ったことを色々と話しをしてまいりましたが、倉阪委員のご提案はとてもいい提案だなと言いたかったこととなります。君津の地勢的な良さ、東京へ行くのもちょうど良く、外房から来るのもちょうど良い、また在宅勤務するにもいい環境に置かれていることをアピールしたほうがいいのかと思いました。

【小関常雄委員】

ありがとうございます。他にございますか。

【斎藤佳子委員】

私からはですね、事前に意見を聞かれていた施策提案シートにも記入しておりましたが、所謂、企業等の研修施設や、サテライトオフィスなど作ってみてはどうかと提案させていただいておりまして、先ほど倉阪委員が提案や事例紹介をなさっていて、内容に近い部分があるので見当違いでもないのかなと思いました。現在、一般企業では研修に非常に力を入れているかと思います。例えば世田谷や羽山にある研修施設で研修することがございます。世田谷の施設などは特に都会な場所にあるので何か施策をする、アイデアを生みだす場所としては難しい所があるのかと思いますので、それなら東京から1時間で来れる千葉県で、そのような企業向けや大学生などが宿泊しながら合宿ができる施設を作れないかと考えておりました。また、先ほどのご意見にあった廃校と組み合わせて、廃校をリフォームして研修施設を設置することで君津へ来ていただければ、関係人口を増やす一端として企業の研修受け入れといったことができる施設はいかがかなと思い提案させていただきました。

【小関常雄委員】

ありがとうございます。他にございますか。

【内山雅博委員】

私も君津の人口を増やすことを考えた時、君津地区で産業と人口を増やさなくてはダメだというふうに基本的に考えておりました。そうした場合に小糸、清和、小櫃、上総の地域はどうしたらいいだろうかというふうに考えた場合に、君津の自然の豊かさを利用してなんとか観光等で交流人口を増加させながら、いいところだと知ってもらい、推進をしていくといったところを考えておりました。ただ、だいぶ時間がかかるなというところで、先ほどのご意見の中で横尾委員からあったようにメディアをうまく使うことで時間を短縮するという話もありましたので、それらを複合的に使いながら時間をもっと短縮できれば非

常に有効な提案じゃないかなと思いました。

【小関常雄委員】

ありがとうございます。私からは、倉阪委員が最後におっしゃっていた廃熱の利用についてですが、私ども鉄鋼会社に勤めているところですので、廃熱の利用について、こういう手法があって世の中で使われることについて認識しておりますが、どこにどのように使うのかという思いもありまして、倉阪委員のご提案も参考にしながら、どういうタイミングになるか分かりませんけども検討していきたいと思います。

よろしければ議題1は終了させていただきまして、議事2「第2期君津市「まち・ひと・しごと創生」総合戦略のたたき台について」事務局からの説明を求めます。

【中村係長】

～資料に沿って説明～

【小関常雄委員】

ありがとうございました、事務局の説明の中で各委員に出していた施策提案がございますが、作っていただいてから時間が経過していることもございますので、更に追加の提案や補足などありましたら各委員からお願ひいたします。

【齊藤茂雄委員】

事前に資料提供いただいたときに施策提案の提出ができなくて申し訳なかったところですけれども、日本製鉄とかも同様に大変な被害を受けられたと思いますが、農協も台風で甚大な被害が出ておりまして、特に組合員の人家の被害が多数ございます、そして農業施設もこれから一番活気のある産業だと言われてる時に壊滅的な被害を受けてしまって、これからどうやって立て直したり、どういう品目を変更していくとか、岐路に立っているという状況でしたので事前の提出が難しい状況でした。農協では、食べるものだとか小糸川と小櫃川

が君津市の中で今も小糸川流域では自然薯や小糸在来、そしてお米の種取りの千葉県1位、そしてカラーの日本一といった良い川の流域が小櫃川流域にもあります、自然を守りながらの地道な活動ではありますが行っておりまして、私どもからいたしますと君津市と袖ヶ浦市と富津市の3市でJAきみつが成り立ってるわけでありますが、自然を活かした取組みをしていかなくてはならない中で、袖ヶ浦市は市長選で様々な情報が発表をしていまして、県内で3番目に人口が増加しているという情報があります。また、横浜などからすると君津の印象はという鉄の街、そしておいしい味楽団の直売所といったところがアンケートで返ってきます。それを活かしていきたいなと思っております。それから、移動時間で言うと袖ヶ浦市がやはり40分から50分で東京や横浜に行ってしまうと、私も君津のバスターミナルを利用していますと、バスターミナル周辺に人口が増えないといけないということは直に感じているところであります。そこをなんとか最大限、石井市長に努力して頂いて住宅を増やして頂いて保育園の施設の充実、ウチにも子供がいて最初は君津市に住んでいたんですけど、保育園とかの関係で袖ヶ浦市に行ってしまって、私自身が君津市の有識者会議の委員になっているので止めようとしたんですけど、そういう思いのある人は多いのかなと感じています。

【小関常雄委員】

齊藤委員の実体験による貴重なご意見をいただきありがとうございます。その他にご意見などございますでしょうか。

【鶴巻郁夫委員】

この総合戦略のたたき台を頂いて、言うことをたくさん考えてきたんですけども人口の話に集中されているのでそこに絞って、申し上げたいと思います。まずは倉阪先生の先ほどの資料にあるご提案ですが、私も千葉県の部長時代にやろうと言ったことがありまして、返ってきた答えが、こういうことはなかなか難しいといったこととして、中身はいいことだからどうしたらできるか考えようということで県庁職員は何とか前向きにやっていこうと言ってくれましたけど、色々と話を地域に入って聞いていくと、住民の方が逆にそこまで必要性

を感じてないということがございまして、実は先ほど横尾委員からもあった通り、そこそこ豊かな地域でそこそこ魅力もあるとなると、今焦ってそんなことしなくてもいいよという感じがありまして、空き家になったところを貸してくれと言っても、市が借りるというなら公的な所だから安心でしょうと言っても、「周りから何言われるかわかんないし嫌なんだよね」「そこまで必要に感じないんだよね」と言われます。そうすると、住民の中に入っていくのが難しいんじゃないかなっていうことになります。倉阪先生の人口推計のデータを見ますと今を危機とせずいつ危機と言うのかということがわかりますが、正直言いますと、危機感の乏しさというのは実はこのたたき台からも拝見されます。例えばこのたたき台の32ページとかの通勤先のところを見ても、東京都への就業者も「比較的多くなっています」って書いてありますけれども千葉県の産業人口を見ると、特に北西部などを中心とすると、働いてる方の6割以上は東京で働いているような状況でして、そうすると、この数字は実はかなり少ないとすることになります。東京で働いている人っていうのは君津から抜けて行ってしまってるんじゃないかと、それを示唆するものが実はその前の方でもサラッと書いてあるんですけども25ページに妊娠届出者と書いてありますが、それを見ると妊娠したら出ててしまっているということですが、これはどういったこととかと言いますと、いざ出産をして保育園に入れたいとして際に、保育園があるかどうかというよりも、入ったとしても度々熱が出たとなると呼び出されることが多いのは皆分かってるわけでして、東京に勤めている方はすぐ戻れる所に行きたいと考えるとなると、じゃあ一本で行ける千葉市なり常磐線沿線あるいは京葉線や浦安など東京から近いところに行ってしまうパターンというのが考えられるわけです。実は震災の後で東京本社の会社が社宅を千葉から神奈川とか埼玉とかに移したとかっていう事例が多く見られまして、中々防ぐことが難しかったんですけど、千葉県内にしても君津以外の所に居ついてしまうという可能性があります。それを防ぐのが難しいのであれば、先ほど齊藤委員がおっしゃった、もう一回戻ってきてもらう方法で考えていきますと、乳幼児期はしようがないとしても、その後の小学校高学年に塾に入るまでの間で実はちょっと手間がかからなくなって、かつ自然を感じられる場所というのは小学校低学年の子どもがいる親としては魅力があるわけですね。実は3歳とか5歳の

頃って親としては一生懸命に色々な所に連れて行ったとしても、子供は何も覚えてなくて怒られたことばっかりしか言わないわけです。小学校低学年をターゲットにして、君津市で育ったんだと言うアイデンティティをうまく育てられれば君津市に愛着を持ってそのまま育ってくれるだろうと、そうすると他の資料にもございましたが、就学の状況を見ても君津から東京へ通うことができるわけですから、なんとかそういった人口を留めてかつ、君津で育てくれたんだからと、長期的に誇りを持ってそのまま住み続けていけるんじゃないかなということも考えました。これらを進めるキーとなるのは倉阪教授のご提案にしても、とにかく地域に入っていって危機感というのを説明できる市役所の方また公民館の方なり、キーマンが必要になってくるんじゃないかなと思いまして、私たちの意見としてはそういったところとなります。

【小関常雄委員】

ありがとうございます。人口を増やすことについてどこをターゲットにしていくかということについて非常に貴重なご意見をいただきました。他にご意見などございますか。

【横尾隆義委員】

この仕事をお受けする時、この施策提案シートの作成依頼がありましたが、まだ提出していない状況で、提案をする以上はしっかりと勉強してから答えたかったので、この会議で話をしたいと考えました。本日、施策の提案をいただいている中で、非常に良いなと思ってるのがターゲットを若い女性あるいは子育て中の方を中心していくのが非常に素敵なことだな、と思っております。行政ですからいろんなことやらなくてはならない中で、メリハリをつけるっていうのが大切だなと思っていました。私、明石市に一度行ったことがありますて、あの市は本当に人が増えておりまして、何をしたかと言いますと、市の真ん中にある昔の市庁舎を全部子育ての館にしてしまったんですね。そこでは全部できるようになってまして、健康診断もできる、保育園もある、それから学童もある、色々なものがあります。驚いたのが、そこには子供とお母さんしかいないんですよね、これを見てしまうと間違いなく人が来るなと思ったら、そ

の通り来ていました。併せて、デベロッパーが開発してマンション建ててると、ただ可哀想なのがあまりにも明石市にいっぱい来てしまったので、他の市町村と差が出来てしまうんですね。その政策は市民が理解していて市民の力で実現されたと思います。是非、女性市長ということも含め、明石市のように推進していくことがいいのかなと思っています。逆に色々な自治体見させていただいても大学の有無がネックになっておりまして、今更大学っていうのがあるかもしれないんですけど、あるいは大学に近い機能、例えば長野県で軽井沢では小林りんさんが国際バカロレアで世界中から集めていらっしゃるけど、これからはラグビーもそうですけれども、今までの考え方でなく新しい多様性のある教育を君津で産み育てていくだとか、そういった大学若しくは大学に替わるもののが存在が作られると大学生は流入します、もちろん流出もする可能性もありますけど、大学がなくてそもそも東京に流出しているぐらいであればその大学生が何割か残っていただいて、人口を増やしていくことが非常に大切なのかと思っています。また多様性で言うと子供についてですが、よく行政に行くと保育園問題とか待機児童問題って言われてますけれども、自分はですねもし東京とか都市部の方から若者を連れてきたいとなると、ただ保育園があるから良いということでなく、それは彼女達からすると必須条件でしかなくて、例えばモンテッソーリだとかはっきりした教育方針を持っている幼児教育を作り上げていくのが重要でして、やっぱり一歩なんとなく都会の匂いがしますよって事をしないと、元々都会に魅力を感じて東京に行った人に戻ってきてもらうには、多少は都会の匂いがする場所じゃないと難しいのではないかと思っています。結果的には幼児教育、初等教育、中等教育、大学的な教育も多様性のところで、まだまだ日本は空きがあるんじゃないかなと思ってます。市原市はアートで頑張ってますけども、君津市は音楽で頑張っていただければと思ってます。何で音楽とか言うと音大生はマイナビとしては昔から注目してまして、何故かというと音大生は真面目で、日々練習しないと卒業できないので、音大生は採用する側としては昔から優秀で地頭がしっかりした人が多いので、君津は音楽で作っていくだとかこの自然の中で音楽をやるとか自然と音楽ミックスするのは地理的や環境的には非常に合ってるのかなと思っています。東京だと音楽をするのに場所の確保が難しいこともありますので。市原市はアート、君津は

音楽を推進して、音楽を取り入れた一貫教育をする政策をしていくだとか、街の至る所で音楽をする所があるだとか、少し尖った政策かつ若い女性に受ける。そして文化の匂いがする、文化の匂いがすることはとても大切なことだと思っていますのでやっていけたらなど個人的には思っています。あと個人的には、ダムが多いところに興味があります。あと行政の会議に出ると、どうしても行政区画での話しになりまして、例えば隣では木更津市さんとかクルックフィールズに私も行ったんですけども非常に良い匂いを感じて、良い素材になってくるんじゃないかなと思っています。君津市も他のエリアをあたかも君津のように宣伝して伸ばしていくのもいいのかなって個人的に思っています。それと、こういう環境を海外の方で喜ぶのは欧米の方だと思っています。成功しているのはいすみ市で欧米の方がもの凄く来ています。やはりグルメや民泊をされている方が非常に多いと思っています。海外というと今はアジアを見てしまいますが、君津も素材はあると思っていますので、欧米の方などにも向けたことをしていくのも非常に重要なところではないかなと思っています。以上です。

【小関常雄委員】

ありがとうございます。他にご意見などござりますか。

【内山雅博委員】

私も人口の減少はとても危機的な状況にあると思っております。金融機関としても、早急に何とかできないのかなっていうのは現実的なところで考えているんですけども、アンケートで男性は20代の後半から30代前半が結婚や住宅の購入のタイミングで出て行ってしまってると、その理由については仕事の都合がほぼ半分っていうこととして逆に会社が君津にあって良い家があったら流出しないんじゃないかなという風にも思ってしまいます。当行が7月に横浜銀行と提携しまして、神奈川の方にある会社あるいは千葉に工場があるといったところでお互いの銀行に取引がある企業を見たところ実は君津には一軒もなく、富津、木更津、袖ヶ浦これらは互いの銀行と取引がある企業があるということで、それは工業団地を持っているだとか非常に大きな要因があると思っています。そういう中で周りを見ていきますと木更津については君津も一部入

ってますけど、かずさアカデミアパークがあつて対岸も近くて、住宅地はほたる野や請西の新興住宅地があつて、商業施設もしっかりあつて、金田東にはアウトレットがあつて、今後は金田西に大型の商業施設とコストコもやってくるといった状況で、港についても構想があるといった状況で、袖ヶ浦も人口が伸びますけれども、椎の森工業団地も順調で、あと袖ヶ浦の海側も開発で商業、住宅、マンション、ホテル、企業の進出と住宅環境の整備、ここがやっぱり手っ取り早いと言つたらなんですが、企業と住宅環境の整備は大事だと思っております。君津を見たところ、先ほど倉阪先生からもありましたけれども内陸を持ってるので、そちらで人口の減少があるといったところでして、海岸には何があるかというと天下の日本製鉄があります。1995年をピークに人口が減ってるのを考えた場合に、日本製鉄さんがいらっしゃって40年代に人口が増えて、それから当然合理化も図られて人も減ってきてる部分もあると思います。日本製鉄が合理化を図っていく中で、一部例えば工業団地を誘致して、他の企業が日本製鉄の横に進出できるのであれば喜んでくると思いますし、そういった工業団地を例えばやってみたりだとか、それと居住環境といえば小糸川の近く中富、下湯江の辺りっていうのが調整区域で歩いてすぐのところが、先ほどアンケートにありましたけれども君津に住むところがないだとか、分譲地がないっていうところがみんな思っているところで、君津じゃなくて袖ヶ浦や木更津が企業と住宅がしっかりしているのだと思います。また、君津インターの近くといった話もありますけれども、農振地区ということで簡単にはいかないっていうのが当然あると思います。そう考えると、日本製鉄で合理化が図られてるとは思いますけれども、土地が余ってたりしないかなという風に思つたりしてしまって駅から歩いて行けるところに住宅地にするとか何か土地活用できなかなと思ってます。そんなところで企業の進出と住宅環境の整備この2点で何とか早くですね人口の減少を止めることに繋がらないかなというふうに思っております。

【小関常雄委員】

先ほど頂いたご意見なんかで私からお答えできる範囲で答えさせていただければと思います。まず、この地域の魅力としてダムが多いとございましたが、こ

これは市長からもダムを有効利用して水上スキーの大会等を開こうとして着実に進められているとお聞きしておりますので、近い将来実現するんじゃないかなと思っています。それと沿岸部の君津製鉄所の中で工業を誘致できないかということですが、これは千葉県商工労働部と一緒にになって、工場内の使える土地等はないかということところで登録はしております、条件が合えばとなっております。見る限り中が広々としてる感じを受けられるかもしれないですが、実を申しますとほぼ余っている土地はないという状態というのが正直なところでして大型の老朽更新をする際だとかそういった時に必要になる土地として確保しますので明け渡してしまうと操業継続するのが、今の技術では難しくなってしまうということでご理解いただけたらと思いますし、できる範囲はやらせていただきます。君津市内での住宅地という話ですと、実は弊社が今年に君津のハウスメーカーである新昭和に土地を売却しております、新昭和さんの方で君津市皆さんにもご協力いただいて住宅地の開発を勧められているところではないかなと思われます。それでは、他にご意見等ございますか。

【倉阪秀史委員】

大まかな方法について何か変えると言ったことではないんですけども、何か新しいことを始めてるというようなイメージを打ち出さないと、やはり君津市に振り向いてくれないのではないかと思います。この子育て支援だと他の所でもやっている取組みですので、もっと大胆に、例えば君津は子育てをみんなでやるんですけど、産んだ人の責任で子供を育てるということではなくて子供は地域の宝だから君津で産んでくれたら、もう後は子育ては皆でやりますと子供が病院に病気になったら、それはみんなでカバーするからお母さんは安心して働いてくださいと、そのお母さんの責任で育てるっていうことではなくて、子育ては皆でやるんだ子育ての社会化を本気で君津市はやるんだと、そのぐらい打ち出さないと差別化ができないんですね。切れ目のない子育て支援って言うと市原市でもやってますし、もう支援ではなく親が育てるのを市が支援するのは当たり前で、子育ての責任を社会全体でシェアしますと、そういったエリアだから来てくださいと、そのための必要な人であったり施設であったり、そういったものをちゃんと用意しますと。先ほどの明石市について今調べたんです

けれども、色々と無料で医療費無料、保育料二人目から無料、病気の子供はちゃんと預かりますだとか、学力向上だとか色々と行ってまして、こういった先進的なものを学びながら、ここに来れば本当に安心して預けられると、社会に子供を預けながら社会で育ててもらえるんだっていうような、これぐらい打ち出して差別化をしないとなかなか来てくれないのではないかと、逆にうまく打ち出すことができればそれで人が来る事になるんじゃないかなと思います。他と違うのが何かというと、打ち出す為の戦略になればと思っております。

【小関常雄委員】

ありがとうございます。他にご意見などございますか。

【斎藤佳子委員】

このＫＰＩの中でですね、ちょっと気になったところですけれども、一番最初に融資に対する融資実績率がございまして、私も金融機関の勤めるもので融資という単語になりますと気になるところでして、この総合戦略というの後々、市民の方に色々とご理解いただいて賛同を得て協力もあっておそらく色々実現されていくようなものだと思うんですが、この中で一番最初にこの融資枠に対する融資実績率ってのがちょっとマニアックかなと言いますが、例えば下にありますに空き店舗を活用した実積率だとか観光入込客数だとか子育てだとか他の項目に比べてみると少しイメージが湧きにくいかな、というところございます。また融資について重要なところではございますが、何か、もし他にあれば、そちらも検討なさったらどうかなと思いました。

【小関常雄委員】

ありがとうございます。色々とご意見いただいたところでございますけれども共通の意見としまして、現状に危機感が若干足りなんじやないかなど、新たに魅力を作り出すということも考えなくてはならないですし、メディア使ってのイメージ戦略っていうのも必要だろうというところのご意見いただいております。それとですね私非常に良いご意見だなと思ったのが、多くの方がおっしゃってますけど、人材育成すると鶴巻委員が書かれている施策立案機能をプロデ

ユースできる人材の育成が非常に美しいと思います。これは職員だけではなく、委員からお話しあったように地元の人が響いてくれないと進まないっていうのが地元の方々にもプレイヤーになっていただき議論になっていく状況を作るのも必要なんじやないかなと思っております。それでは、この会議も残り1回となりますが次の会議までに、たたき台に修正を加えて検討していかなければと思います。進行を事務局にお返しいたします。

【鈴木次長】

座長、進行ありがとうございました。皆様も大変貴重なご意見いただきまして、誠にありがとうございました。

【齊藤茂雄委員】

副市長には前回まで議長として出席いただいているので、もしよろしければ副市長さんから一言を何かいただけたらと思うんですけれどいかがでしょうか。

【中川副市長】

皆様、本日はありがとうございます、副市長の中川でございます。実は本会議には市原市でお世話になった方がお二人いらっしゃいまして、倉阪先生と横尾さんは市原市で一緒にやらせていただきました。今日はすごく活発な議論をできたのかなと感じております。やはり大事なことはさっきおっしゃっていた危機感を持つことで、これはとても大事で市原市の最初の入り口として人口減少というの最大のテーマと捉えて始めました。そこはほぼ君津市と同じような状態でございますので、それを追っかける形になりますけれど、より深刻であるといったところがあります。それは、市原は地形が異なりまして、海岸部に三駅ございまして、姉ヶ崎、五井、八幡宿それから内陸が広がっている地形です。市原市は三駅のところ臨海工業地域がありまして、そこに都市機能が集積していてそこで全てがカバーできるような力を持ってるんですけども君津は逆で、五井地区で養老渓谷までを1地区で見ているような市となってます。ただ、人口減少との話がありましたけども君津地区だけを見ると袖ヶ浦、木更津と遜色ない状態です。従って今はご提案いただいた内陸部でどう里山房総をし

ていくのか、そこにプラスアルファして実体験として横尾委員から頂いた話もございまして、このあたりは長南町や大多喜町とか広域連携しながら市原市でやってきまして、非常に参考になると思いますし、この力っていうのが一市二市三市と繋がっていくとより大きな力になっていきます。高校生のアンケートの中で、木更津市にないものを君津に作って欲しいところがありまして、これが広域連携の基本的なところとして、同じものを作る必要なく、あっちにはないより魅力なものをこちらに作るというのが原点だと思いますので、周辺市と連携を図り、また本日の議論を活用させていただき「まち・ひと・しごと創生」総合戦略を次のステップにして人口減少に歯止めをかける強い思いを持って進めてまいりたいと考えております。次に市長からもお願ひします。

【石井市長】

こんにちは、市長の石井でございます。本日は皆さん本当にありがとうございます、非常に有意義な時間に感じました。改めてこの君津のことを考える時間をたっぷりいただいたと思っておりますし、皆様から様々な意見いただき感謝しております。水と緑の豊かなまち君津っていうのは、かけがえのないものだと思っておりまして、このかけがえのないものということを共感できる人たちがどれほど君津に来ていただけるのか、そしてこのまちと一緒に作っていくことが出来るのかと思っています。50年前の君津を先日文化祭で見まして、駅周辺も何もない田んぼや畠しかないような所で50年前の君津っていうのは今と違って住宅地もなかったわけですね。2021年が市制施行50周年になりますけどちょうど50年経ってきた日本製鉄と共に歩んできたこの50年だと思っておりまして、50年経つとあちらこちら手を入なければならぬところが出てきますのが、この災害によって顕著になったと思っております。この災害への対応したまちを作らなければならぬと感じました。それと倉阪先生の人口の動向を拝見して、より危機感が強くなりまして、特に90代女性が一番多くなるのがどういったことになってるんだろうかと考えますと、本当に厳しい所に来ていると感じます。この90代女性の増加は避けられないかもせんが、下のゾーンをどこまで増やせるかっていうのは、今からもう一度将来を見越した徹底的な策を打っていかないといけないので、出来る限りのことをや

っていきたいというふうに思っております。それにあたって横尾委員のおっしゃった都会の空気というのを吸わないと、こここの良さもわからないですし、ここに何を持ってきたらいいのかっていうのも分からなくなってくると思いますので、議論いただいた上で、更にここに住む人たちがそれを納得して、こういうまちにして行こうという取り組みを加速していきたいと思っております。今年度は残り1回で残念ではございますけども今後とも皆様から忌憚のないご意見を頂いてそれを目標に実現できるようにしっかりとやっていくということを精一杯していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。本日は皆さん本当に議論をして頂き、誠にありがとうございます。

【鈴木次長】

ありがとうございました。最後に事務局からの連絡事項でございますが、今回の会議で頂戴したご意見は、素案に反映させていただいたうえで、改めて皆様へお目通しいただく予定です。修正したい皆様へお配りさせていただきますのでご了承ください。修正した内容について、ご意見等ございましたらメール等でも結構ですのでご連絡お願いいいたします。また、次回の有識者会議ですが、来年2月中旬に予定しております。詳細については、改めて日程調整を行いますのでよろしくお願いします。以上をもちまして、令和元年度第2回君津市「まち・ひと・しごと創生」有識者会議を閉会といたします。本日はご多用の中、ご参集いただき誠にありがとうございました。